

じめた新しい歌だったんです。

—それは先生の二冊目のご本『日韓唱歌の源流』の副題に使用されている言葉ですね。

そうなんです。この言葉が唱歌や讚美歌の歴史を考える時のキーワードになると思ったものですから。

§ 4 唱歌という奇跡

—ありがとうございます。唱歌についてだいぶイメージが出来上がってきましたが、実は今日は先生に特にお聞きしたいテーマを用意してきました。

え、何でしょう？ 怖いんですね。

—はい、怖いです（笑い）。これまでのお話は、はっきり言いまして、まあ常識と云いますか、少なくとも唱歌に少しくわしい人だったら普通に考えることだと思っております。その意味では、それほど不思議ではありません。でもこの番組の趣旨は「不思議発見」ですから。

私はたいして秘密のある人間ではありませんので、ご要望にお応え出来るか。

—いえ、研究者としては秘密があたりだと思います。実は、先生の三冊目のご本を読ませていただいて、とっても不満だったのです。



そうですか、分かりやすく面白く書いたつもりですが。

——はい、それも分かります。でも、あの序文は不満です。ちょっと視聴者の皆様にご紹介します。先生はこうお書きになっています。「唱歌誕生は実は、アジア太平洋海域諸民族の近代歌謡史において一つの奇跡であった、と言わねばならない。」と。

こんなことを言われたのは先生がはじめてで、今でも他の誰も言いません。本当に日本の唱歌誕生は奇跡だったのでしょうか。失礼な言い方かもしれませんが、根本も葉もないとまでは言いませんが、序文で人目を引くために大げさなおっしゃったのではありませんか。そう思って本文を読みはじめたのですが、先生はどこにも奇跡であった、という答えを書いていらっしやらないじゃないですか。

番組の噂は聞いていました。ありきたりのお追従番組じゃないから、気をつけた方がいいよ、と忠告してくれる同僚もいたくらいです。でも、私はこういうのは好きですね。お世辞を言われることには慣れていきますから。でも、よく気がつかれましたね。

——え、やっぱりそうですか？ 実は半分は自信がなかったのですが、番組の構成を考えている時、そうじゃないかなと。で、これを切り口にしよう。

正直言いますとね、あの序文は最後に書いたものです。本文は雑誌に連載したものをまとめたものです。それで、本文を書いてだいぶん経ってから新書にまとめる時に、新しく序文を書き下ろしたのです。しかもその時自分が研究で一番興味を持つ

ていたことを書いたものですから、本文の序文には実はなっていないのです。ですから、おっしゃる通り、本文には序文に書いた、「唱歌誕生は実は、アジア太平洋海域諸民族の近代歌謡史において一つの奇跡であつた、と言わねはならない。」については全然書いていません。

—ああ、よかつた、やっぱりそうですね。それで、調べさせてもらいました。「奇跡」については、その後お書きになっていませんよね。学会発表では少しなされてるようですが。

ええ、何か機会がなかつたものですから。でも、その間も、ハワイに行ったり、ミクロネシアやサモアにも行ったりして、自分ではこつこつ調べてはいるのですが。

§5 唱歌誕生は奇跡だつた

—そうでしたか、だったら今日はその新鮮なお話を中心にぜひお願いしたいと思います。

そうですね、唱歌の誕生と言いますと明治のはじめ頃の出来事なのですが、普通それを奇跡とまでは考えません。それを私があえて奇跡と呼ぶのは二つの理由からです。一つは唱歌の誕生ではこれまでと違って日本に持ってこられた讚美歌との関係を重要視しているからですね。唱歌は讚美歌から生まれている、と考へていること